

みえ高校生県議会 参加校及び質問項目一覧 (令和8年8月20日開催)

学校名 質問項目	質問概要	答弁の概要	答弁者
海星高等学校 「教職員の処 遇改善に向け た取り組み」	教員の業務について常勤教員を対象にアンケートを実施したところ、「授業以外の業務が多いと感じたことがありますか」の問いに対し、94.6%が「はい」と回答する結果だった。多くの教員から、授業以外の業務が多く授業準備や生徒指導に十分な時間をかけることができない、また、休みを取りたいときに代替の教員がおらず教員不足を感じるという声が寄せられた。このような現状を踏まえ、<u>教員以外の職員ができる仕事は新たな専門職が担うなど、学校の仕事の仕組みそのものを見直す「先生救出大作戦」を提案する。</u> 教員が授業や生徒指導に専念できるように、<u>事務作業や保護者対応等を担う新たなポストの配置やA Iの導入等、教員の仕事の負担を減らす取組を行う考えはあるか。</u>また、教員不足が続く中、<u>県外からの人材確保や社会人経験者の採用、定年退職者の活用等、新たな人材確保策にどのように取り組んでいるかをお聞きしたい。</u> 【答弁後の意見】 教員を増やすだけではなく、働き続けられる学校を作り、よりよい教育を届けることが大切であると考えている。教員一人ひとりの頑張りや責任が目に見える形で認められるような、<u>「担任手当」や「生徒指導手当」等の役割に応じた手当の支給等の処遇を行う仕組みづくりを検討いただきたい。</u>	県では、全国でも早い時期に令和3年度から全ての県立学校に、先生のサポートを行う「スクール・サポート・スタッフ」を配置している。その結果、月45時間を超える長時間の時間外労働を行う先生の数 は6年前と比べ大きく減少しており、先生の業務負担は着実に改善されている。 一方で、皆さんが実施したアンケート結果にあるように、授業以外の業務の負担については今後も改善に向けた取組を続ける必要があると考える。 また、先生の新たな人材確保策については、特定の分野において教員免許がなくても高い専門知識や経験を持つ社会人を先生として採用する取組や、大学3年生から採用試験に挑戦できる特別な選考を行うなど、採用試験を受験しやすくするために工夫するとともに、教職の魅力発信等を行っている。 子どもたちが安心して学校に通い、質の高い教育を受けられるように、先生の負担軽減や人材確保、効果的な情報発信に向けた取組について、県議会としても引き続き調査と議論を重ね、教育委員会に対して積極的に働きかけていく。	教育警察常任委員長

学校名 質問項目	質問概要	答弁の概要	答弁者
宇治山田 高等学校 「ＩＣＴで南 勢地区の教育 を活発に」	今日の学校教育は、ＩＣＴ活用によるさらなる発展が期待され、高校では授業以外でも１人１台端末を使用している。私たちは、１人１台端末の活用により学校生活をさらに良くできると考えている。生徒数が減少し、校内行事の縮小や、高校で出会う友達が少なくなることが想像される<u>南勢地区の現状を１人１台端末で変えたい</u>。具体的には、<u>南勢地区の高校合同での学校対抗大会を、１人１台端末を活用して企画、実行したい</u>。 「三重県１人１台端末利活用方針」では、１人１台端末を活用した学習の目的として、共生する力の育成を掲げている。これは、授業だけでなく、学校生活で楽しみにしている行事を他校の人たちと企画する中でこそ、身につけることができるのではないかと。さらに、行事を共に企画することで、南勢地区の高校生同士がさらに仲良くなり、高め合う存在にもなれる。私たちは、県全体の活性化に取り組んでいる皆さんからの助言等もいただきながら、南勢地区の学校を盛り上げていきたい。<u>この提案に協力していただけるか。</u> 【答弁後の意見】 具体的には、会場確保や交通手段のための予算確保、昼食を販売する飲食店の募集、この取組を県内に広めるための広報に協力してほしい。一緒に地域活性化を進めてほしい。	１人１台端末を自校での学習や活動に限らず、他校との合同行事という場で活用し、県が掲げる共生する力を身につけようとする姿勢に、心を打たれたところである。 そのような皆さんの前向きな姿勢を常任委員会等の場でしっかりと共有するとともに、教育委員会にも共有し、各校の生徒会や教員の皆さんが連携しやすいよう、どのような支援ができるか改めて検討し、可能な限り協力あるいは支援を行いたい。 宇治山田高等学校の皆さんにおいては、今回の１人１台端末を活用した他校との合同行事をぜひ実現していただきたい。そのために友人や教員、さらには地域の方々をうまく巻き込み、周囲の協力も得ながら進めるとともに、一度きりのイベントで終わらせず、毎年引き継がれる行事にしていくと、より良いものになると思う。実現すれば、皆さんの取組が県全体のモデルケースになる可能性も大いにある。皆さんの手で南勢地区を盛り上げ、それが三重県全体に広がり、県全体の活性化にもつながるよう、ぜひ取り組んでいただきたい。 高校生が協働的な学びや学校行事等を通じ、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が整備されるよう、引き続きしっかりと調査、議論していきたい。	教育警察常任委員長

学校名 質問項目	質問概要	答弁の概要	答弁者
上野高等学校 「高校生を対象とした英検受験料の無償化および、補助制度の創設」	英検は高校生にとって最も身近で挑戦しやすい英語資格の一つで、合格という明確な目標があるため、日頃の英語学習へのモチベーションにつながるだけでなく、自分の英語力を客観的に確認できるというメリットもある。また、近年では大学入試や総合型選抜、学校推薦型選抜、さらには就職活動においても英検を活用できる場面が増えており、その重要性は年々高まっている。 一方、高校生にとって英検の受験料は決して安くはなく、特に複数回受験したい人や上位級に挑戦したい人にとっては大きな経済的負担であり、受験料が理由で受験をためらう生徒も少なくない。校内アンケートでも、多くの生徒が受験料を高く感じており、受験料補助があれば積極的に受験したいと思っていることがわかった。英検受験料の補助制度や無償化が実現すれば、より多くの高校生が積極的に受験することが期待できると考えられる。 英検受験料への支援は伊賀市や宮城県丸森町で既に実施されており、決して特別な制度ではない。だからこそ、三重県全体でも導入を検討する価値があるのではないか。 伊賀市等の取組を参考に、<u>三重県でも高校生を対象とした英検受験料の補助制度や無償化を検討する考えはあるか。また、実施する場合にはどのような課題があると考えているか。</u>	三重県が令和6年3月に教育の新しい指針として策定した「三重県教育ビジョン」では、三重の教育の目指す姿とその実現に向けた取組内容や目標を示しており、その一つであるグローバル教育の推進として、海外との交流や多様な価値観・文化等に触れる機会の創出、英語教育等の推進を図ることが明記されている。 ご提案いただいた高校生を対象とした英検受験料の無償化や補助制度の創設は、英検が学習のモチベーション向上や自分の英語力の客観的評価につながるという点、進学や就職等の選択肢を広げるという点について、まさにそのとおりである。 県では英語力向上に向けた様々な取組を行っているが、現時点で英検の受験料の無償化や補助等は実施していない。本日のご提案や他の自治体の取組等も参考にしながら、さらにどういった取組ができるか、今後も教育委員会等と情報共有を図りながら議論を行っていきたい。 英検の受験料の無償化や補助等を実施する際の課題としては、英検以外の英語資格や英語以外の語学や教科の資格取得を目指す生徒との公平性をどのように確保するか、制度導入のための財源をどのように確保するか等があり、こうした課題と導入した場合の効果等を考慮しながら検討していく必要がある。委員会ですっきりと調査、議論を深めていきたい。	教育警察常任委員長